「次世代認証連携を実現する技術開発の今とサービス事業展開に向けて」に頂いた質問と回答

講演名	質問	回答
学認が目指す次世代認証連携	次世代になると、学認に参加するにはIAL2、AAL2への準拠が要件となる見込みなのでしょうか？	現時点では IAL2/AAL2 準拠を学認参加の要件とする議論はございません。ただし、中長期的には、学認全体におけるALの底上げや SP からの要望なども踏まえて検討することになるだろうと考えております。 学認としては、機関が IAL2/AAL2 に効率的に対応することができるように知見の共有や技術支援等を行う所存です。AAL2 に関しては「認証器レジストリ」の試行運用を今年度から開始する予定ですのでご活用いただければと存じます。
認証プロキシサービス Orthrosについて	OrthrosがリリースされるとOpenIdPはサービス終了する予定なんでしょうか？（少し役割が違うような気もしております）	Orthros は OpenIdP の後継でもありますので、OpenIdP から Orthros への移行が完了すれば OpenIdP は運用停止いたします。 OpenIdP は、学認に参加していない機関の構成員に対して、一部のサービスを利用するためのIDを発行してきましたが、その OpenIdP の役割を差し当たり Orthros が引き受けます。
	「オルトロス」の名前の由来が知りたいです	当該認証プロキシサービスは、IdP と SP を仲介しそれぞれの機能を補完するように振る舞います。ギリシャ神話に登場する「双頭の犬」である Orthros が、IdP と SP とを仲介する（双頭でもって IdP と SP を同時に見る）イメージにマッチしたので、この認証プロキシサービスの愛称として命名しました。

「次世代認証連携を実現する技術開発の今とサービス事業展開に向けて」に頂いた質問と回答

講演名	質問	回答
認証プロキシサービス Orthrosについて	Orthrosについて、認証プロキシでSAMLにOAuthのAccessTokenをアサートするというのは、従来のSAMLとOAuthベースのプロトコルで互換がとれるようになるというイメージでしょうか？以上、よろしくお願いいたします	プロトコルの互換というよりは、それぞれの認証技術におけるクレデンシャル（認証情報が格納されたモノとします）間で互換がとれるというイメージです。もちろん、そこではトークンにあるクレームと SAML アサーションの属性が必要十分に対応することが前提となります。 例えば、SP が SAML で IdP が OAuth ベースに基づくものとしますと、Orthros と SP 間の通信は SAML のままで、Orthros と IdP 間の通信は OAuth ベースのままでそれぞれ変更はありません。
	機関側にIDを持ち、gBizIDも持つ場合もあり得る（例えば、大学教員で会社も経営など？）と思います。その場合の正規化はSP利用管理側が行う必要があるという理解になりますでしょうか。（ややこしい例ですいません）	回答作成中

「次世代認証連携を実現する技術開発の今とサービス事業展開に向けて」に頂いた質問と回答

講演名	質問	回答
グループ管理機能高度化について	質問ではなく感想なのですが，西村先生の発表で「人は様々なグループに所属しており、全てを管理するのは困難」というところに大変共感しました．システムというよりは組織側の体制が必要な部分も大きいかなと思いました．	共感いただきありがとうございます。 今回のスライドで触れております通り、組織で一元的に管理されない情報（兼務情報や研究チームなど）については、必要に応じて、本人申告や承認などにより属性を追加することで、その属性を含めたグループを作って認可に使用できる仕組みを検討しております。（組織内向けのシステムは実現しましたが、組織を超えたグループを作成するとき、その属性の取り扱いに関するポリシーが複雑であるなど、検討事項も多く、実現までにまだまだ時間がかかりそうです） 全てをカバーするのは現実的ではないにせよ、典型的なパターン、カバーすることでメリットが大きい領域、などカバーできる範囲を拡大していければと思っております。日頃お感じになっている事例やお困り事を、下記事務局までお寄せいただけましたら幸いです。 https://www.gakunin.jp/contact